

電源立地地域温排水対策事業 — 温排水有効利用事業導入基礎調査 (アワビ) — (要 約)

横山 勝幸

将来、温排水を有効利用したエゾアワビ海面養殖の可能性について検討するための基礎資料を得ることを目的として、アワビ養殖試験（東通地点）、アワビ中間育成試験及び放流追跡調査（大間地点）を実施した。なお、詳細は「平成元年度電源立地地域温排水対策事業調査報告書（東通地点）」、「同（大間地点）」（平成2年3月、青森県）として報告した。

東 通 地 点

※ アワビ養殖試験

(1) 方 法

前回の試験（昭和61年度～昭和63年度）と同様に、県栽培漁業センターの昭和63年産人工種苗を用い、白糠漁港内において海面養殖施設（延縄式）からの籠垂下による養殖試験を実施した。

(2) 結果の要約

アワビ測定結果は表1のとおりであり、試験は次年度へ継続して実施中である。

表1 アワビ養殖試験測定結果

年 月 日	測 定 個 数	平 均 殻 長 (標準偏差)(mm)	平 均 重 量 (g)	生 残 率 (%)	備 考
1989. 7. 5	100	19.04 (1.21)	0.86	100	測定籠 No. 1、2
9.12	100	23.44 (2.50)	1.61	92.75	〃 No. 3、8
12. 9	100	28.18 (5.06)	2.87	78.00	〃 No. 4、5
1990. 1.30	100	30.96 (5.32)	3.83	63.25	〃 No. 2、9

大 間 地 点

1 アワビ中間育成試験

(1) 方 法

県栽培漁業センターの昭和63年産人工種苗を用い、大間地先海域の3ヶ所において海面養殖施設

(延縄式)からの籠垂下による中間育成試験を実施した。

(2) 結果の要約

1989年6月29日より同年10月27日までの育成により、大型貝5,748個(推定生残率68.4%、平均殻長23.92mm、増殻長4.74mm)、小型貝10,849個(推定生残率51.7%、平均殻長16.59mm、増殻長1.69mm)を得て放流した。

2. 放流アワビ追跡調査(1988年放流群)

(1) 方法

1988年10月に放流した3ヶ所のうち、割石地先及び根田内地先の2ヶ所について、1989年8月30日に潜水調査した。

(2) 結果の要約

1988年放流アワビの生貝は、割石地先で1個体、根田内地先で20個体再捕された。(表2)

再捕貝の増殻長と放流時殻長との間には相関関係はみられなかった($r=0.270$)が、再捕貝の放流時殻長の平均(25.92mm)は、放流時の全放流貝の平均(23.94mm)よりやや大きく、やはり大きい貝を放流するほうが生残率は向上するものと思われた。

表2 1988年放流貝測定結果(1989年8月30日調査)

地先	殻長 (mm)	殻幅 (mm)	殻高 (mm)	重量 (g)	放流時殻長 (mm)	増殻長 (mm)
割石	29.8	20.5	6.3	2.3	25.2	4.6
根田内	54.2	35.9	10.8	18.0	31.0	23.2
	52.0	34.0	9.2	14.5	29.8	22.2
	47.2	32.3	8.8	11.8	28.9	18.3
	46.1	31.8	10.2	11.7	22.8	23.3
	46.0	32.5	9.1	11.5	26.8	19.2
	45.7	32.9	11.0	12.2	不明	—
	44.3	30.8	9.5	8.9	27.6	16.7
	44.2	29.5	9.2	9.1	28.7	15.5
	42.4	30.0	9.2	9.3	26.7	15.7
	40.0	28.6	10.0	8.3	24.2	15.8
	39.1	27.3	9.8	7.3	30.3	8.8
	39.0	26.5	8.8	6.7	22.0	17.0
	38.1	28.0	8.2	7.6	23.0	15.1
	36.2	26.0	8.2	5.8	23.3	12.9
	33.4	23.9	7.2	4.2	23.2	10.2
	32.1	23.7	6.2	3.9	23.7	8.4
	43.0	31.2	10.0	10.6	不明	—
	36.5	26.4	7.3	4.5	25.0	11.5
	39.7	27.6	9.0	7.2	23.0	16.7
45.1	30.5	10.0	8.9	27.2	22.2	
平均	41.62	29.04	8.95	8.78	25.92	15.65